

高岡ロータリークラブ

会長／山本 毅 幹事／塩崎 吉康



2022/4/28

No.34

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

例会日：木曜日 12:30～13:30 創立：1951/11/15 チャーターナイト：1952/4/15 創立順位：No.6

司会 竹田 会場監督 点鐘 山本 会長

点鐘

国歌斉唱

ロータリーの目的／四つのテスト

ゲスト並びにビジター紹介

<ゲスト>

◇県国民健康保険団体連合会常務理事 須河 弘美 氏

<幹事ゲスト>

◇大和証券株式会社 高岡支店 原 良輔 氏

会長挨拶

誕生祝

立浪 徹 会員 (5/11・66才)

◇4月17日開催の地区研修・協議会報告
(谷道会長エレクト)

幹事報告

◇次週 5/5 例会は法定休日のため例会取消です。

< ニコニコBOX 6件 17,000円 >

山本(毅)会長／もうすぐゴールデンウィークです。どうぞお楽しみください。今日は、憲法についてお話します。ロシアのウクライナ侵略により、憲法改正の必要性がますます明らかになりました。須河様、卓話よろしくお祈いします。

加茂副会長／須河さん卓話楽しみです。よろしくお祈い致します。ナヌシー家が30日に帰国します。クラブからの餞別に感激してまいいた。クラブの皆さんに感謝！

塩崎幹事／今週末30日、1日は3年ぶりに御車山祭りが開催されます。30日の夜は是非山町ヴァレーに遊びに来てください。ゲストの須河さん卓話よろしくお祈いします。同じく幹事ゲストの原さん、ようこそ高岡ロータリークラブへ！

藤田筆頭理事／地区 RLI パートⅢが4月28日にズームにて開催されディスカッションリーダーを無事に終了することができました。応援いただいた皆様に感謝です。次年度は塩崎吉康君が出向いたしますので宜しくお祈いします。感謝。

駒井君／昨日、高岡カントリーにて役員委員懇親コンペがありハンディキャップに恵まれて優勝してしまいました。来月は呉羽同好会を開催する予定です。皆様のご参加をお願いいたします。

吉岡君／昨日4月27日(水)に独立行政法人 中小企業基盤整備機構から「中小企業応援士」の再委嘱を受けました。令和2年7月に第1回の委嘱を受けて、引き続きの委嘱です。これからも地域の企業を応援していきます。



卓話

『 女性活躍を進めるには 』

須河 弘美 氏

富山県国民健康保険団体連合会常務理事の須河弘美です。私は、36年間富山県庁に勤務して令和2年3月に退職。最後は富山県庁で女性初の部長として、生活環境文化部長を務めました。

女性活躍の背景には深刻な少子化があります。今、富山県の合計特殊出生率は1.48。1組の夫婦2人から1.5人弱しか子どもが生まれません。1世代下がると同じ年齢の人口は4分の3になり、今後、「支えられる側」の人口より「支える側」の人口が少ない時代が長く続き、このことが労働現場での人手不足を招きます。働き手を増やすには「ジョロウガイ」、つまり「女性、老人、外人」の活用が必要。女性活躍の推進は、構造的な人手不足への必須の方策です。

金融庁は「有価証券報告書」の開示項目に、男女別の賃金の開示を義務づける方針を明らかにし、さらに、女性の管理職の比率や、男性の育児休業の取得率も加える方向です。多くの企業経営者は、女性の活躍について総論賛成、各論反対だと思いますが、企業が各論反対のままでいけば、政策はどんどん強硬なものになっていくと予想されますので、経済界には対応をお願いします。

私が県庁で部長になれたのには理由があります。職場では、①女性だからといって手加減されず容赦なく育てられたこと、②育児期に私の望まない過剰な配慮は行われなかったこと、③県庁に女性を主戦力として採用してきた歴史があったこと、④そして決定的だったのは、私の昇進のタイミングで女性活躍の風が吹いたことがあります。また家庭では、①家族が、私が働くことを否定したり疑問に思ったりしなかったこと、②育児は母親の仕事という固定した考え方がなかったこと、③家事育児のクオリティにはこだわらなかったことが理由に挙げられます。

県庁での勤務は、子どもをおぶったまま、身軽な男性と不公平な 100m 競走をしているようなものでした。男性たちが子育てについてあまりにも無感覚で無能力で無責任であることが女性の活躍を阻んでいます。そのため、活躍したい女性たちは子どもを持たないようになっています。女性も男性も、体は一つしかなく、1 日は 24 時間しかありません。女性が職業生活で活躍するときは、男性には家庭生活で活躍してもらう必要があります。現在、男性に育児休業を取ってもらおうという動きが加速しており、「男性版産休」という仕組みが今年 10 月から始まります。男性が育児休業を取ることは、真剣に語るべき話になっています。

富山県の場合、少子化の要因として「若い女性が帰って来ない」ことが深刻な問題となっています。女性の転出超過は男性の 2 倍にもなります。都道府県別のジェンダー・ギャップ指数の富山県の順位は、教育が 9 位、経済 29 位、行政 26 位、政治 37 位です。せっかく高い教育を受けた女性たちが帰って来る気になるように、経済・行政・政治分野の順位を上げることが必要です。地域の屋台骨を背負っているロータリークラブの皆様には、役割を果たしていただけることがきっとあると思います。